

聖書の語る神①—神と人との関係から—

原田元道

造り主なる神

- ・ 神様は御自分にかたどって人間を創造された
 - 神様にかたどって創造されたのは人間のみ
 - 「神は御自分にかたどって人を創造された」(創世記 1:27)
 - 人間は神様の性質を世に示すことができる存在として造られた
 - 墮落(罪を犯した)後も神様にかたどって造られた**事実是不変**
 - 「人の血を流す者は人によって自分の血を流される。人は神にかたどって造られたからだ。」(創世記 9:6 ; 比較 : 創世記 5:1-3 ; ヤコブ 3:9)
- ・ 神様は人間に**使命・目的**を与えた
 - この地を**神様のように支配する**のが人間の本来の使命・目的
 - 「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」(創世記 1:28)
 - 人間は神様にかたどって造られた存在として、神様のように(正義と公正、愛と憐れみをもって)この地を支配する
 - 墮落(罪を犯した)後も人間が創造された**使命・目的は不変**
 - 「産めよ、増えよ、地に満ちよ。地のすべての獣と空のすべての鳥は、地を這うすべてのものと海のすべての魚と共に、あなたたちの前に恐れおののき、あなたたちの手にゆだねられる。」(創世記 9:1-2 ; 比較 : 詩編 8:6-9 ; 黙示録 5:9-10; 22:5)

⇒神様にとって、人間は被造物の中で非常に特別な存在

裁き主なる神

- ・ 神様は**罪や悪を見過ごせない**(罰せずにはいられない)
 - 神様は正しいことをするお方
 - 「主は岩、その御業は完全でその道はことごとく正しい。真実の神で偽りなく正しくてまっすぐな方。」(申命記 32:4)
 - 神様御自身が正しさの基準となる
 - 罪が支払う**報酬は「死」**(ローマ 6:23)
 - 「生き物の命は血の中にあるからである。わたしが血をあなたたちに与えたのは、祭壇の上であなたたちの命の贖いの儀式をするためである。血はその中の命によって贖いをするのである。」(レビ記 17:11)
 - 無傷の動物の命(特に血)をいけにえとして捧げる
- ・ 神様はこの世の**悪と相容れることがなく、悪によって汚されることもない**
 - 神様が「神の民」に望むことは「**聖なる者**」となること
 - 「イスラエルの人々の共同体全体に告げてこう言いなさい。あなたたちは聖なる者となりなさい。あなたたちの神、主であるわたしは聖なる者である。」(レビ記 19:2)
 - 律法や掟に示される「聖なる」生き方をする事で、周りの人々に神の神聖さを知らしめる(比較 : 申命記 4:5-6 ; マタイ 5:14-16)
 - 聖なる神様の「**怒り**」は**罪や悪に対する自然な反応**
 - ←罪や悪が存在しなければ神の怒りも存在しない
 - 「あなたは荒野で、あなたの神、主を怒らせたことを思い起こし、忘れてはならない。あなたたちは、エジプトの国を出た日からここに来るまで主に背き続けてきた。ホレブにいたとき、あなたたちが主を怒らせたので、主はあなたたちに向かって激しく憤り、滅ぼそうとされた。」(申命記 9:7-8)
 - 「不義によって真理の働きを妨げる人間のあらゆる不信心と不義に対して、神は天から怒

りを現されます。」(ローマ 1:18)

⇒神様にとって、人間の罪は見過ごせない存在

救い主なる神

- ・ 神様は罪を犯した人間を見捨てておけなかった
 - 人と契約を結ばれる神様

「わたしはまた、エジプト人の奴隷となっているイスラエルの人々のうめき声を聞き、わたしの契約を思い起こした。それゆえ、イスラエルの人々に言いなさい。わたしは主である。わたしはエジプトの重労働の下からあなたたちを導き出し、奴隷の身分から救い出す。腕を伸ばし、大いなる審判によってあなたたちを贖う。そして、わたしはあなたたちをわたしの民とし、わたしはあなたたちの神となる」(出エジプト記 6:5-7)

→神様は恵みによって救い出した人々を「神の民」とする
 - 人々のただ中に住み、共にいてくださる神様

←契約関係に基づく恵み(人間の努力・成果によらない)

「ヤコブよ、あなたを創造された主は／イスラエルよ、あなたを造られた主は／今、こう言われる。恐れるな、わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの。わたしはあなたの名を呼ぶ。水の中を通るときも、わたしはあなたと共にいる。大河の中を通っても、あなたは押し流されない。火の中を歩いても、焼かれず／炎はあなたに燃えつかない。」(イザヤ書 43:1-2)
- ・ 神様は人々がイエス様を信じれば救われる道を用意された
 - 怒りが向けられて当然な存在(罪人)すらも無条件で愛する神様

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ 3:16)

「御子を信じる人は永遠の命を得ているが、御子に従わない者は、命にあずかることがないばかりか、神の怒りがその上にとどまる。」(ヨハネ 3:36)
 - 人の罪の報酬(死)を支払うために十字架にかかった神様の独り子

「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」(マルコ 10:45)

「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。」(Iヨハネ 4:10)

⇒神様にとって、人間は独り子なるイエス様の命に代えても惜しくないほどの存在

まとめ

- ・ 神様にとって、人間は被造物の中で非常に特別な存在
 - 神様にかたどって造られた人間
 - 神様のようにこの地を支配する使命をもつ人間
- ・ 神様にとって、人間の罪は見過ごせない存在
 - 怒りをもって罪を罰する正しい神様
 - 「聖なる者」になることを望む聖なる神様
- ・ 神様にとって、人間は独り子なるイエス様の命に代えても惜しくないほどの存在
 - 恵みによって救い出し、共にいてくださる憐れみ深い神様
 - 独り子なるイエス様をお与えになった愛なる神様